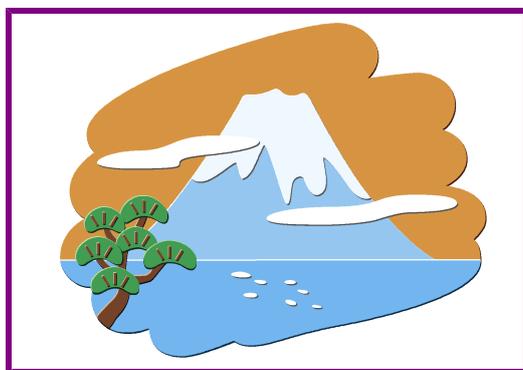


めぐみイエス・キリスト教会

2018年1月7日(日)2018年新年礼拝
週報「通算第388号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈祷会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年1月7日(2018年新年礼拝)

午前10時～11時

司会 鈴木 ますみ さん 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏・祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌339「恵みの高き嶺」 p. 538

【交読文】 No.39 詩篇第122篇 p. 911

【賛美Ⅱ】 新聖歌248「人生の海の嵐に」 p. 382

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週のメッセージの概要】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉に帰ろう」 新曲

【聖書朗読】 使徒の働き27章22節～26節(新約p. 261上段)

【祈 禱】

【メッセージ】 《元気を出しなさい》 鈴木竜実師

【聖 餐 式】

【平和の祈り】

【賛美Ⅳ】 新聖歌198「God Bless You」 p. 294

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱・後奏】

●ポイント1 なぜパウロはローマに行くことになったのか？

※ローマ人への手紙1章10節「パウロの願いとは？」 (新約p.265)

1:10 いつも祈りのたびごとに、神のみ心によって、何とかして、今度はついに道が開かれて、あなたがたの所に行けるようにと願っています。

※使徒の働き26章32節～27章1・2節「百人隊長ユリアスと共に」(新約p.260)

26:32 またアグリッパはフェストに、「この人は、もしカイザルに上訴しなかったら、釈放されたであろうに。」と言った。

27:1 さて、私たちが船でイタリヤへ行くことが決まったとき、パウロと、ほかの数人の囚人は、ユリアスという親衛隊の百人隊長に引き渡された。

27:2 私たちは、アジアの沿岸の各地に寄港して行くアドラミテオの船に乗り込んで出帆した。テサロニケのマケドニヤ人アリストアルコも同行した。

●ポイント2 パウロの言葉と、船長と航海士の言葉

※使徒の働き27章9節～11節「パウロの経験上からの進言」 (新約p.260)

かなりの日数が経過しており、断食の季節もすでに過ぎていたため、もう航海は危険であったので、パウロは人々に注意して、「皆さん。この航海では、きっと、積荷や船体だけではなく、私たちの生命にも、危害と大きな損失が及ぶと、私は考えます。」と言った。

しかし百人隊長は、パウロの言葉よりも、航海士や船長の方を信用した。

●ポイント3 神様はなぜパウロをローマに行かせたのか？

※コロサイ人への手紙4章18節「パウロによる自筆」 (新約p.362)

4:18 パウロが自筆であいさつを送ります。私が牢につながれていることを覚えていて下さい。どうか、恵みがあなたがたと共にありますように。

■獄中書簡とは？ パウロの4つの書簡(エペソ人への手紙、ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙、ピレモンへの手紙)を総称して獄中書簡と呼ぶ。

エペソ人への手紙とコロサイ人への手紙はその内容と文体において類似点が多く、両書簡は教会論の貴重な資料である。

エペソ6:21、コロサイ4:7によると、この2つの手紙とピレモンへの手紙は、同じ時期に同じ場所で書かれていることが分る。伝承では、ローマの獄中とされている。従って執筆年代も、A.D61～63年の間と考えて間違いない。

※ローマ人への手紙8章28節「パウロによる勧め」 (新約p.277)

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々の為には、神がすべてのことを働かせて益として下さることを、私たちは知っています。

◎先週のメッセージの概要【私の魂よ。主を誉め讃えよ。】

《詩篇146篇から150篇までを「ハレルヤ詩篇」と言います。都上りの歌とも言われ、エルサレムに向かう巡礼の旅人たちが、謳いながら歩いて行きました。

この詩篇の作者は、「ハレルヤ。私の魂よ。主をほめたたえよ。私は生きていくかぎり、主をほめたたえよう。」と神様を賛美しています。これこそが神様の望まれることであり、また私たちがすべきことなのです。

さて物事がすべて順風満帆に行っている時には、私たちは神様に感謝を捧げ、賛美することは容易いことなのですが、実はこの詩篇の作者はその反対の状況に置かれているのです。

ダビデは、サウル王によって苦境に立たされた時、「わが魂よ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」と謳いました。まさに詩篇146篇の作者と同じ立場だったのです。

また私たちは、誰を信じ頼るべきか、この詩篇の作者は明確にしています。「幸いなことよ。ヤコブの神を助けとし、その神、主に望みを置く者は。」

そして新約時代においては、私たちは、イエス様こそが頼るべきお方であることを知っています。主イエス様は、「私は、あなたがたが、私の名によって何かを私に求めるなら、私はそれをしましょう。」と言われたのです。

さらに、詩篇146篇の作者は、はっきりと宣言しています。「主は天と地と海とその中のいっさいを造った方。とこしえまでも真実を守り飢えた者にパンを与える方。主は捕われ人を解放され、盲人の目をあけ、かがんでいる者を起こされる。」と。これは、イエス様がなされたことなのです。

また使徒パウロはこのように勧めています。「いつも主にあって喜びなさい。何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもって捧げる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」と。これこそが、私の魂が主を誉め讃える事へと繋がるのです。》

◎お知らせ

1. 次回1月14日(日)の礼拝は、通常通りです。第三週1月21日(日)の礼拝は、鈴木師が聖書キリスト教会の午後集會に参加しなければならない為、午前中もしくは、1月20日(土)の午後6時の時間帯に移動したいと考えています。
2. 次回祈祷会は、1月10日(水)に行ないます。
3. 1月9日(火)下妻朝祈祷会にて、鈴木師はメッセージです。お祈り下さい。